

家畜衛生広報



ながの

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665
E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

蜜蜂腐蛆病検査が始まります。



本年は、春先から初夏にかけては少雨が続き、採蜜は順調だったかと思えます。しかし、秋口に来て雨が続き、病気が心配です。

さて、9月から「蜜蜂腐蛆病検査」が始まります。検査時に腐蛆病が発見された場合、巣箱及び巣脾は焼却処分となります。蜂群管理をしっかり行い、越冬に向けての準備を合わせてしましょう。

腐蛆病とは

腐蛆病菌(細菌)が原因で、蜜蜂の幼虫(蛆)が腐る病気です。家畜伝染病予防法で法定伝染病に指定されており、次の2種類があります。

★アメリカ腐蛆病

- ・感染後死亡した幼虫はすぐに巢外に出されるため、巢房が空になる。
- ・これを耐過した幼虫は、巢房に蓋をし(有蓋巢房)、さなぎになる間に死亡し、腐蛆になる。
- ・腐蛆は独特の臭いがあり、幼虫が溶けて液状(褐色、粘着性)を呈する。

★ヨーロッパ腐蛆病

- ・幼虫は巢房に蓋をする前に死亡して、無蓋巢房内に死亡幼虫がみられる。
- ・腐蛆は溶解せず、粘着性なし。特徴的な発酵臭と酸臭がある。



アメリカ腐蛆病:糸を引く蜂児



ヨーロッパ腐蛆病:発病群の巣脾、蜂児は様々な状態で死亡

蜜蜂の様子をこまめに見て
病気の予防と異常の早期発見、健康な蜂群を!

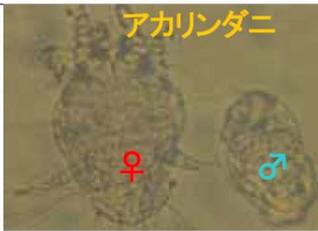


しあわせ
信州

イベント満載 今年の信州!!

- 信州ブレイクステーションキャンペーン (7月~)
- G7 長野県・軽井沢交通大臣会合 (9月)
- 第72回 国民体育大会冬季大会 (1月)

<参考> 腐蛆病以外のおもな蜜蜂の病気

| 名称 | 症 状 | 予防 |
|---|--|---|
| <p>バロア病 (ミツバチヘギイタダニ感染症)</p> <p>届出 伝染病</p> | <p>・蜂児は体液を吸われて、成長不全や小型化、羽・肢の伸張が不全なみつばち(奇形蜂)がでる。 ・本ダニの寄生が多くなると、蜂児やサナギの「死に籠もり」が出る。 ・ダニが巣房の蓋を破って外に出るとき開いた穴がふそ病の小孔と類似</p>  <p>矢印:みつばちの腹部節間に入り込んだミツバチヘギイタダニ</p> | <p>ダニ駆除剤 「アピスタン」 「アピバル」 用法を誤ると、 薬剤耐性のダニ が出現するの で、注意する。</p> |
| <p>チョコレート病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因:カビ (<i>Ascospaera apis</i>)</p> | <p>・3~4日齢の幼虫が、カビの胞子に感染。 ・蜂児は、白色または黒褐色をしたミイラ状になって死亡するので診断は容易。 ・巣門前や、巣房内にミイラ化した個体が散見される。 ・みつばちの活動が低下し、巣箱内の換気が悪くなると発症しやすい。 ・カビの胞子は環境に比較的長期間生存するので、一度発生した蜂場は、再発しやすい。</p>  <p>ミイラ状の蜂児</p> | <p>予防薬: 「クリアキール-100、 パコマL 等」</p> <p>巣箱の換気に 注意し、蜂群を 強性に保つこと で、本病はほと んど防げる。</p> |
| <p>ノゼマ病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因: ノゼマ原虫</p> | <p>・重度に感染すると、糞詰まり、腹部膨満、飛行不能となり、巣門周辺を徘徊する。 ・感染群では、下痢による巣箱の異常な汚れ。 ・感染蜂は寿命が半減。</p> | <p>・換気や巣箱の 設置場所の環 境に注意 ・衛生管理を徹 底し、蜂群を強 勢に保つ</p> |
| <p>アカリダニ症</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因:ミツバチ 気管ダニ</p> | <p>・原因ダニが気管内に寄生。 ・羽化後4日以内の成蜂にのみ感染。 ・重傷の場合、腹部が腫れて飛行不能となり、巣門から這い出して死亡。 ・病蜂の頭部と胸部を引っ張ってちぎると、腹部の気管が不規則な斑点で黒ずんで汚れている。</p>  <p>アカリダニ</p> | <p>・若蜂が羽化中 の有蓋蜂児枠を 抜き出して、健 康な蜂群を作 る。</p> |
| <p>麻痺病 (這い出し病)</p> <p>原因: ウイルス</p> | <p>・病蜂は飛行不能で地表を這い回る。 ・1型は蜂の足や羽が震えて麻痺し、死亡。 ・2型は蜂の体毛が抜けて、黒光りする(写真の左が正常、右が病蜂)。</p>  <p>正常 病蜂</p> | <p>・飼養管理 ・器具の消毒 ・女王蜂の更新</p> |
| <p>サック病 (サックルート)</p> <p>原因: ウイルス</p> | <p>・2日齢の蜂児が感染し、有蓋蜂児で死亡。 ・巣房の蓋が陥凹し、小孔が開く。 ・蜂児は灰~褐色~黒色へ変化し、中に液体を入れた硬い袋(サック)状になる。 ・乾燥すると、頭部が湾曲し、ゴンドラのへさきのように見える</p>  <p>病蜂児 正常</p> <p>(写真の上が感染蜂児、下が正常)</p> | <p>・飼養管理 ・器具の消毒</p> |